

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 29 年度

事業所番号	2775002542		
法人名	社会福祉法人 由寿会		
事業所名	グループホーム香寿庵		
所在地	東大阪市稲田新町1-10-1		
自己評価作成日	平成 29年 12月 1日	評価結果市町村受理日	平成 30年 2月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhou_detail_2017_022_kanitrue&JiyosvoCd=2775002542-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 30年 1月 18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

筋力低下の予防の為、朝・昼にラジオ体操や1週間の運動の予定表を作り、デュアルタスクを入れて動いて頂き、また、散歩・買い物・生活上の家事等を出来る・出来ないを見極め、生活支援に取り入れ、流れでボランティアやレクリエーションをして生活の張りを作って、楽しく過ごして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

20年の歴史を持ち、地域福祉に貢献している社会福祉法人が運営する1ユニットのグループホームです。同法人は高齢者総合サービスセンターとして地域包括支援センター、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、在宅事業全般を運営し、ホームと連携した運営を進めています。災害対策では特養と連携し、市の危機管理室や福祉部の参加を得て、非常災害時の避難誘導訓練を行い、課題を共有しています。特養併設の診療所と連携して利用者の健康管理を行い、緊急時の対応に備えています。ホーム内は清掃が行き届き、床暖房や空気清浄機が作動して生活環境を整えています。利用者は穏やかで利用者間の会話も多く、他の利用者とは話し合うことで落ち着かれる様子も見られます。職員は利用者の自立支援に力を入れ、利用者は毎日1回は外に出て体操をする、散歩や買い物、外食に出かける、いも掘りをするなど体力維持にも取り組んでいます。職員は認知症ケアワーカー会議に参加して専門的な技術習得に取り組み、利用者支援に活かしています。家族や地域と連携し、さらに質の高いサービス提供をめざしているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	香寿庵独自の目標を作成しており、CW会議でも話している。いつでも見られるようフロアに掲示し、理念を共有している。	理念には「1. ご利用者様の人権尊重・意思尊重を大切に 2. ご利用者様、職員共によりよい環境であるように 3. 積極的熱心な最新・最良の情報入手と取り組み 4. 民主的柔軟な施設運営 5. 地域に密着した施設であるように」を掲げています。職員は理念を運営目標として具体化し、「健やかで、安らぎのある暮らし、ゆったりと時が過ぎせる自由な暮らし、自分らしさや誇りが保たれた暮らし、生活の張り合いや喜びがある暮らし、仲間と一緒に過ごす楽しさのある暮らし、地域に開かれた地域とともにある暮らし」の実現を目指しています。理念と運営目標はホーム内に掲示し、職員は朝礼等で理念を共有して実践につなげています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>地域での畑の利用・買い物・外食会等を行っており、地域開催の文化祭・祭り・盆踊り等に参加や、月1回の居酒屋「庵」に地域の方々やご家族様と共に参加しており、馴染みの関係作りを日常的に交流している。</p>	<p>近くのコンビニやスーパー、商店街の買い物に出かけ、地域住民と挨拶や言葉を交わすことが日常的にあります。隣接する公園で、児童や親子連れと顔なじみになり、急な天候悪化時には雨宿りの場所として施設を使ってもらえるようになり、地域との繋がりを大切にしています。地域の方の好意で畑を借り、さつまいもを苗から育てたり、地域の行事への参加、地域住民がホームの行事に参加する等、利用者、職員、ホーム共に地域に溶け込んだ交流があります。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議にて認知症の事を説明させて頂き、香寿庵にてお茶会を開催して地域の方々と認知症の人の理解や支援の方法を説明させて頂き、一緒に過ごして頂いている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では、ご利用者様の日常生活を説明し、生活上のサービスやリスクを伝えて、色々な意見を出して頂き、サービスの向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議には、民生委員、地域の代表、家族、地域包括支援センター職員が参加し、2カ月に1回開催しています。ホームからは活動報告、研修報告、事故報告等を行い、参加者からは地域の情報や助言を得て、サービス向上に活かしています。会議録は自由に閲覧できるよう掲示し、職員間で共有しています。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>包括の職員に運営推進会議に参加して頂いている。会議の内容を記録し、市の担当者に提出している。</p>	<p>市の担当者とは何かあれば連絡をして相談や情報交換をしています。担当課に運営推進会議の記録を届ける際には会議運営についての助言を得るなどしています。平成29年度は市の危機管理室や福祉部に要請し、非常災害時の防災訓練や避難訓練に参加してもらい、災害対策や緊急時避難誘導についての課題を共有すると共に、危機管理についての具体的な対応策について相談し、助言を得ています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>法人では身体拘束廃止宣言をしており、身体拘束委員を発足させ、拘束の身体拘束廃止宣言を行い、ポスターを掲示しています。</p> <p>今までに拘束の事例はありません。職員は人権や拘束の研修を受け、日々の実践を通し拘束について学習しています。</p> <p>玄関は、日中は鍵をせず自由に出入り出来ています。</p> <p>一日に1回は全員屋外に出て、外気に触れ体操や歩くことで気分転換になり、穏やかにすごされています。</p> <p>外に出たい利用者には職員はさり気なく付き添い、安全に配慮しています。事例がなくても話し合いを行い、職員も理解をしている。9:00～17:30 は玄関の鍵を開けており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止宣言を行い、ホーム内にポスターを掲示しています。職員は人権や身体拘束廃止についての研修を受講し、日々の実践を通して拘束廃止についての学習をしています。玄関は、日中は鍵をせず自由に出入りできるようにしています。外に出たい利用者には職員がさり気なく付き添い、安全に配慮しています。一日に1回は利用者全員が屋外に出て、外気浴や体操、散歩をすることで気分転換をはかり、穏やかにすごせるように支援しています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人が実施している研修に参加し、虐待を見逃さないように努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加し、今後必要とされるご家族様に説明していけるように支援している。入所後、後見人制度を利用したご利用者様もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約の時、また改定の際は十分な説明を行い、少しでも不安のない生活を送って頂けるように図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ボックスの設置やご利用者様・ご家族様との会話の中で色々な意見を聞いて、CW会議や運営推進会議で反映させている。	家族の来訪時には職員からあいさつをして利用者の様子を報告し、意見や要望を聞くように努めています。毎月利用者の写真を掲載した「ピーちゃん便り」を家族等に送付して、利用者の様子を知らせています。また、苦情ボックスを設置して意見を出しやすい雰囲気づくりをしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者はCW会議にて、直接職員の意見や提案を聞く事に努め、反映できるように努めている。また代表者は、役職者会議などを通して参加した職員の意見などを聞く機会を設け反映している。</p>	<p>管理者は日頃から職員と対話して意見や提案を聞くよう努めています。職員会議や役職者会議を通じて職員の意見や提案を取り上げ、実現できるようにしています。年に2回、職員のやりがいに繋がるよう職員の努力や実績を評価する機会を設けています。またアンケート調査や各会議での発言の場を活かして職員の意見を聴取し、職員一人ひとりが意欲を持って働けるよう環境整備をしています。法人代表者は役職者会議等で職員の意見を聞き、ホーム運営がスムーズに行えるよう支援しています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年に2回、職員のやりがいに繋がるよう職員の努力や実績を評価できる機会を設けたり、アンケートでの調査や各会議での職員の意見を吸い上げる機会を設け、職員が意欲を持って働けるような環境・条件の整備に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日本認知症グループホーム協会や大阪認知症グループホーム協議会への加入にて年間の施設内研修計画も立て、外部研修にも参加して各資格を取得できるよう、セミナー等の案内をお知らせする事で、働きながらトレーニングできるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	21年度より、地域密着サービスの東大阪市介護保険事業者連絡会にも参加し、同業者との交流を深めながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所されたご利用者様は環境の変化に対応できなくて不安な様子が現れる。声かけや側に寄り添い話の傾聴等行い、安心して頂くよう努めている。また、アセスメントシートに記入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前と入所時に色々な説明を行い、面会時に色々とお話をし、信頼関係ができるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様の様子観察やご家族様の話の傾聴等で必要としている支援を見極められるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に盛り付け、後片付けや掃除等の役割を持って頂き、レクの参加を通して一緒に過ごし、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、一緒に支えていきましよう伝え、ご利用者様の受診に行つて下さり、本人を支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>地域近所の入居者が増え、ご友人や親せきの面会も多く、また、ご家族様が外出に連れていって下さる。(受診・外食・泊まり等)</p>	<p>地域からの入居者が増え、友人、知人、家族の訪問が多くあります。職員は利用者と一緒に過ごすよう配慮しています。家族の協力で、従来からの病院受診や行きつけの場所での外食、家族宅への外泊等、馴染みの関係を継続しています。併設デイサービスの催しに参加し、思いがけなく友人に再会する事もあります。携帯電話やはがき等での交流もあります。職員は馴染みの関係が続くよう利用者の希望に沿った支援をしています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ご利用者様の価値観の違いで衝突(口論)が多いが、職員が中に入り関わりを持つ事で、孤立しないよう支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院されたご利用者様の面会に行かせて頂いてご家族様と話し合い、退院後の不安の解消に繋がるように、他のサービスを伝えフォローしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様に安心した生活を送って頂くには、できる事やできない事の把握、また、話の中での希望や思いを探って感じ取り、CW会議にて検討している。	職員は日常会話の中で、利用者一人ひとりの思いや意向をくみ取り、意向に沿った支援を進めています。言葉で意向確認が困難な場合には表情やそぶりで確認し、利用者本位に対応しています。時には家族と相談しながら利用者の思いが実現できるように取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族様の話の傾聴で把握していき、センター方式に記入を行うよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子を記入していき、一人ひとりの心身の状態を見極め、総合的に把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご利用者様の近況報告を面会時や電話で伝え、ケアプランの変更・更新時はご家族様も交え、職員共にケアの在り方について話し合っている。また、医療的ケアについては、Dr. も参加で現状に即した介護計画を作成できるよう努力している。</p>	<p>介護計画書作成時には、事前に家族の意向を確認し、細やかにアセスメントを行い、サービス担当者会議を開催しています。必要時には家族の参加を得てカンファレンスを行い、医師や看護師、管理栄養士を交えた話し合いをしています。介護計画書は目標に沿って実施記録を残し、月1回モニタリングを行い、3ヵ月を目途に見直しをしています。状況の変化が著しい場合には、その都度見直しをして状況に沿ったプランを作成しています。法人では認知症ケアワーカー会議を月1回開催し、周辺症状についての対応や困難事例への対応について、専門的な技術を習得し、利用者が安心して過ごせるように支援しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>センター方式を取り入れて日々の様子を記入、また、D-5シートに気づきを書く事により、介護計画の見直しや情報の共有に活かしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>身体的低下や認知症が進まなくても、少しでも香寿庵で生活を希望されているご家族様のニーズに添えるよう、サービスを考え取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>隣の稲田公園への散歩で気分転換を図り、個別で買い物をして好きな物を選んで頂き、暮らしを楽しめるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所前に受診されていたかかりつけ医に受診されるご利用者様もおられ、遠方のご家族様も、忙しい方や緊急時には特養併設の診療所に週3回のDr.による往診が受けられ、看護師も日中勤務しており、適切な医療が受けられる。</p>	<p>利用者・家族の希望する医療機関で適切な医療が受けられるように支援しています。入居前からかかりつけている医療機関に家族が付き添い受診している利用者もあり、家族の都合がつかない場合や緊急時等には職員が付き添うこともあります。利用者・家族の希望があれば、隣接する特養診療所の往診を受けることができます。診療所と連携して、緊急時にも対応できるようにしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定や様子観察で体調の変化に気づき、診療所の看護師と相談を行いながら、適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、面会や電話を通じて病院関係者・ご家族様と情報交換を行い、関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ご家族様と話し合いを行い、意向を聞きながらケアをしているが、香寿庵の生活がご利用者様にとって苦痛と思われたら、他の選択肢として特養の申し込みも可能であることを伝え、その後特養入所で退所になる場合もある。	重度化した場合の対応については入居面談時に「看取り支援は行っていない」状況を説明して、利用者・家族の合意を得ています。重度化した場合の対応として、事前に特養入所の申し込みをされる家族もあります。重度化した場合には家族の希望に沿って話し合い、医師や看護師とも相談しながら、適切な生活の場へ移行できるよう細やかな支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルも備えており、CW会議などでも話し合い、また、法人の勉強会にも参加している。消防署主催の救命救急の講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の特養の職員と共に避難訓練に定期的に参加し、平成29年9月にご利用者様と一緒に水害を想定した避難訓練を行い特養の3階に避難をする。災害マニュアルは備えているが、地域との協力体制までは取り組めていない。	災害対策は毎年消防署と連携し、同法人特養と合同の取り組みをしています。今年度は避難訓練に利用者全員が参加し、短時間でスムーズに屋外に避難することができたと職員は評価しています。避難訓練には施設長の要請で市の危機管理室や福祉部からの参加もあり、水害等非常災害時の対応等について課題を共有しています。具体的には車イスでの避難誘導や困難事例への対応等、様々な課題を共有すると共に、危機管理室から具体的な助言を得ています。災害時の備蓄については、水や備品等をホーム1階の倉庫に保管しています。食品類やガスコンロ、その他の水については、同法人が厨房を委託している業者が保管しています。グループホーム用の備蓄については特養2階の厨房に保管されており、3日分程度の数量は確保されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	CW会議にて、ご利用者様の尊厳・言葉遣いに気を付けるよう何度も話し合っており、対応に気を付けている。	ホームでは利用者一人ひとりの尊厳を守るよう、言葉かけや対応に配慮しています。職員の心得の一つとして接遇を重視し、言葉使いや対応については職員間で確認し合い、慣れ合いにならないような対応を心がけています。職員は月1回開催される認知症ケアワーカー会議に参加して、利用者の状況に沿った言葉かけや支援が行えるよう、より専門的なかわり方を学び、利用者が安心して過ごせるような接遇を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	手伝いやレクの参加、買い物で好きな物の購入など。自己決定が難しいご利用者様には話の傾聴などで希望を察するように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日ゆっくりとご利用者様のペースに合わせた支援をしているが、特に排泄・入浴・食事の時は注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様はご自分で服を選んでおられ、コーディネートがおかしい場合は尊厳を傷つけないように着替えて頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、職員とお話をしながら一緒に食事を楽しまれる。食べにくいご利用者様には刻みで提供したり、盛り付けやテーブル・お盆拭き等を一緒に行い、毎日楽しみながらしている。時々、食べたい物を聞いて外食会に行っている。	同法人管理栄養士がバランスの良い献立を作り、食材を吟味して、利用者の状況に沿った食事を提供しています。ご飯はホームで炊き、副食は隣接する同法人特養の厨房で調理したものを職員と利用者が配膳しています。利用者はご飯やおかずを盛り付けるなど、得意な部分で役割を持って取り組んでいます。利用者は毎月行っているホームクッキングでおやつ作りに腕をふるい、時にはバーベキューをして肉や野菜を味わっています。2か月に1回は外食に出かけて懐石料理、お好み焼き、寿司等を味わい、気分転換しています。近所の畑を借りてさつまいもを育て、みんなで収穫して焼き芋大会をすることも、楽しみ事の一つです。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは管理栄養士作成の献立で給食から取り寄せ、毎食後食べた量・水分量のチェックを行い、一人ひとりの状態を考えて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後・夕食後に口腔ケアをしており、できないご利用者様には職員が介助を行い、異常があれば歯科受診をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入していき、ご利用者様の排泄パターンを掴み、誘導や声かけを行っている。CW会議にて、ご利用者様に合ったりハビリパンツ・パットの見直しの話し合いをしている。	職員は自立支援に力を入れており、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して利用者の状況に沿った支援をしています。自立に近い利用者の場合はそっと見守り、排泄後に状況を確認して記録に残しています。職員のさりげない誘導や声かけにより失敗も少なく、スムーズな排泄が可能となっています。おむつ類は職員間で検討し、家族とも相談して利用者に適したものを使用しています。便秘の予防に体操を取り入れ、腸の動きを活発にしてスムーズな排便を促しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝体操をして体を動かす事により、予防に取り組んでいる。「の」の字体操も行っている。それでも便が出ないご利用者様は、下剤を服用されている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4日で2回入浴して頂いている。入浴拒否のご利用者様には、拒否された場合は場面を変えて再び声かけを行い、それでも拒否された場合は夜間に入浴して頂くご利用者様もいます。	ホームでは週2回の入浴支援をしています。必要に応じてシャワー浴をすることもあります。ゆず湯、菖蒲湯などの季節湯や入浴剤を使った変わり湯も楽しんでいます。入浴を好まれない場合には様子を見て翌日に入浴を勧める、夜間に入浴してもらう、等の対応をしています。	利用者の希望がある場合には週3回程度の入浴支援をしてはいかがでしょうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の声かけを行い、安心して休んで頂けるよう支援を行い、不安で眠れないご利用者様には話の傾聴を行い、安心して眠れるよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カーデックスやセンター方式に服薬されている薬を記入して、服薬の誤りがないように日付を記入。新しい薬を服薬して頂く時は、症状の変化を確認する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ご家族様から趣味等を聞かせて頂き、折り紙・塗り絵・書き取り・裁縫等をご利用者に合った楽しみ事をして頂き、また、不穏・不安になられたご利用者様には散歩に行くなどの気分転換の支援をしています。</p>	/	/
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>何か気になり帰宅願望のご利用者様には一緒に散歩や買い物に行き、また、ご家族様との墓参り・外食会・特養のテラス利用してのバーベキューや焼き芋をして食べている。</p>	<p>ホームでは一日に1回は利用者全員が外に出る取り組みをしています。利用者は外気浴をしながら、ラジオ体操や音楽に合わせてリハビリ体操をすることで体をほぐし、その後、周辺地域を散歩して楽しんでいます。近くのコンビニや商店街へ買物に出かけたり、隣接の公園で遊んでいる親子連れと交流したりしています。ホーム周辺を散策して、近くの喫茶店でお茶を楽しむこともあります。気分転換に隣接する同法人特養に出向いて、イベントに参加したり、デイサービス利用者や交流したりしています。年間を通じて、お花見、歩こう会、盆踊り、芋掘り等のイベントにも出かけています。外食に出て、好きなもの、美味しいものを味わい、気分転換することも多々あります。</p>	<p>ホームでは一日に1回は利用者全員が外に出て、下肢筋力を高め気分転換を図る取り組みをしています。今後はさらに、利用者一人ひとりの希望に沿った外出となるよう取り組む予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>財布を持っておられるご利用者様に一緒に買い物に行き、食べたい物を購入され支払いをして頂くよう支援をしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>用事のある時はご家族様と話す機会を作っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングに小物を置く事により家庭的な雰囲気になるようにしているが、特養と併設しており館内放送が聞こえる為、混乱されないように気を付け、声かけを行い少しでも居心地良く過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>1階に玄関があり、階段を上がるとリビングルームがあります。リビング中央には大きなテーブルを二つ置いて、利用者が食事や談話をしたり、絵画やレクリエーションを楽しんだり、自由に過ごせるようにしています。リビング南面に公園を見下ろす出窓があり、テレビとソファを置いてゆっくりくつろげるようにしています。西側には隣接する特養へ通じる出入口があり、特養との交流時の通路、緊急避難時の通路としても活用しています。台所、浴室、トイレ、カウンター等は家庭的で、それぞれ使いやすく工夫しています。また、廊下には全て手すりを付けて利用者の安全面に配慮しています。ホーム内は清掃が行き届き、床暖房や空気清浄機が作動しており、利用者が安心して過ごせるようにしています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ご自身の席を確保しつつ、ソファへの移動を可能として気の合う方と話せる空間を確保している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使用されていたタンス・イス・仏壇・写真などを置いて、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	各部屋のドアに表札と利用者の写真等をかけて自室を分かりやすくしています。家具や調度品の持ち込みは自由で、利用者は使い慣れたタンス、イス、机、テレビ、仏壇等の家具、ぬいぐるみ、写真、時計、絵画等を持参して居心地よく過ごせるようにしています。ベッド、エアコン、洗面台、カーテン、クローゼットは備え付けになっています。職員は居室の清掃を利用者と共に行い、安全に気持ち良く過ごせるように空調にも配慮した支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	香寿庵内で自立した生活を送れるよう手すり等を設置して、安全に使い勝手の良い工夫をしている。一時的に車イス使用となった場合、併設の特養のエレベーターを使用し、できるだけ長く自立した生活を送れるよう支援している。		